



学校番号 2 1

秋田中央高等学校 中期ビジョン (5か年計画)

創立百周年を迎える5か年

歴史を あらた 飾るもの 誓いの汗は われらの汗は
描くよ 世紀の 躍進を (校歌 3番より)

本校が目指す5年後の姿(具体的な目標) [平成28年度～令和2年度]

①学校の現状や課題

○SSHの利点を生かした教育活動の推進

SSH(スーパーサイエンスハイスクール事業)は本校の大きな特色となっており課題研究及び高大接続の面で著しい成果を挙げている。さらに、SSHを活用した進路実現も増してきている。

今後、SSHと進学指導との関わりをより一層深めることが課題である。「探究活動」を進路選択に結び付け、キャリア教育としての位置付けを重視していきたい。

○文武両道の理想の追求

本校は第七次秋田県高等学校総合整備計画において「進学を中心校としての役割を果たす学校」の中の一つとして示されている。生徒の潜在的な能力を十分に引き出し、地域社会の期待に応えることが求められている。

一方、本校生徒の約80%は部活動に加入し、目標達成に向けて、仲間との友情を深めながら自己を鍛錬し、成果を挙げている。

○創立百周年と校舎改築

平成29年に新校舎が竣工した。真新しい教育環境の下、令和2年度に創立百周年を迎える。百周年に向けて様々な活動に取り組むことにより学校に勢いを付け、秋田市北部地域及び男鹿、潟上、南秋地域における拠点校としての役割を担う自覚を高めたい。

②学校を取り巻く将来の状況の予測

○中学校卒業予定者の予測(H27.4.1現在)

	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3
秋田市	2,799人	2,720人	2,707人	2,600人	2,563人	2,498人
南秋・男鹿・潟上	694人	691人	624人	686人	645人	558人
合計	3,493人	3,411人	3,331人	3,286人	3,208人	3,056人

平成28年3月から令和2年3月にかけて、中学校の卒業生数は年間45人から85人の減で推移していくが、5年後の令和3年3月の卒業生数は前年度のそれとの比較で152人の大幅な減少が予想されている。

その後3,000人前後で推移するが、令和7年3月の卒業生数から再び減少が顕著になり、令和8年3月の中学校の卒業生数は2,830人と予想されている。今後、秋田市内においても、高校の規模縮小は一層進んでいくと思われる。

○秋田市北部地域の人口減少と高齢化

秋田市北部地域の令和2年の予想人口は、72,499人であり、平成27年との比較では4,827人の減少となる。同地区の65歳以上の割合は34.1%と予想され、高齢化の進行が加速していく。

○令和2年度導入の大学入学共通テスト(新テスト)

時代や社会の変革、大学入学共通テスト(新テスト)の導入等大学入試の改革に伴い、コンピテンシー・ベースの学力の伸長が求められている。本校においても、アクティブ・ラーニングの推進を含めた授業改善により、そうした学力の育成を目指す必要がある。

③目指す学校像 (Vision)

- 次の百年を見据え、進学校としての更なる発展を目指す
- 文武ともに高い目標を掲げ、両立を図ることができる人間を育成する
- 探究する力、発信する力を学校の全教育活動を通して育てる
- 我が国や秋田県の将来を支える人材を育成し、地域の拠点校としての役割を担う

④5年間を通しての具体的目標

－ 創立百周年に向け、秋田中央高校が目指すもの －

○国公立大学合格者100名

- ・約8割の生徒が国公立大学を志望している実態を踏まえ、志望実現のために高い目標をもって指導に臨み、進学校としての本校の更なる発展につなげたい。
- ・東北大や医学部など難関大学(学部)への挑戦者を増やすための指導を推進する。

○SSHの再指定

- ・SSHは本校の教育活動の中核に位置付けられる。これまで進めてきた様々な事業が大きな成果を挙げていることを踏まえ、学校を挙げて再指定に向けた取組を推進する。

○部活動の全国大会出場と科学系の全国的コンテスト入賞

- ・高い目標を掲げて努力することで生徒の人的な成長と学校の活性化を図る。
- ・毎年、いずれかの運動部が全国大会(インターハイ、甲子園、花園等)に出場できること、吹奏楽部が全国大会に出場できること、躍進探究部が全国的コンテストで入賞できることを目指す。

具体的な取組等

1 SSH事業とその成果の継承

- (1) 秋田県立大学の教職員と本校の教職員からなる「高大接続委員会」の定期開催
- (2) 高大接続教育プログラムの実践
- (3) 学校設定科目「躍進」の実施を通じた科学的基礎力、持続的探究力、問題解決力の育成
- (4) 「総合的な学習の時間」における課題研究や、外部講師による講演、講座の実施
- (5) 躍進探究部による探究活動の推進と科学系コンクールへの出展の継続
- (6) 学校設定科目「躍進英語」の実施と英語を用いたプレゼンテーションの指導の充実
- (7) SSH再指定に向けた研究及び企画立案の取組の推進

2 授業改善と「中央型探究授業」の確立

- (1) すべての教科・科目でアクティブ・ラーニングや探究的な学習の積極的な導入
- (2) 県立大学教員と本校教員による協働授業の実施と授業改善のための情報交換
- (3) 授業参観日の設定と、教科の枠を超えた授業参観及び校内研修会の開催
- (4) 授業アンケートの実施による授業の改善点と授業レベルの把握

3 入試改革を視野に入れた進学指導

- (1) SSH事業の成果を十分に生かす工夫
- (2) AO入試、推薦入試、そして一般入試に組織的に対応する進学体制の確立
- (3) 進学実績の一層の向上につながる効果的な教育課程の編成

4 部活動の一層の活性化と実績向上

- (1) 部活動加入の奨励
- (2) 部活動活性化のための効果的な支援の検討
- (3) 新校舎並びに施設設備を最大限に活用できる方策と安全管理の徹底

5 創立百周年記念事業の推進

創立百周年記念祝賀会をはじめ、実施する事業5部門の企画・運営を推進していく。記念事業の目的・趣旨に則り、創立百周年を生徒、教職員、同窓会、振興会、そして地域の方々とが一体となって祝う意義深い節目にするよう事業を実施する。

6 地域の関係機関との連携及び地域貢献

- (1) 地域の小中高との「科学」を通じたネットワーク構築に関する共同研究の推進
- (2) 土崎港曳山まつりへの参加並びに運動部による除雪等のボランティアの継続
- (3) 本校吹奏楽部による地元小中学校との音楽祭の開催

平成31年4月26日一部改訂